

これまでの成果と現地からの声

貧困

村の貯蓄を改革し、**800万人**以上の 経済的自立を支援

1991年に CARE が世界で初めて開発した「村内貯蓄貸付組合」。今日では、世界 64 か国に拡がり、80 万の組合が設立されています。自分の意思で自由に使えるお金を手にすることで、女性の家庭内での発言力が高まっています。

子どもに使うお金を夫に頼む必要がなくなりました。まだ参加していない人にも、大変ためになると伝えたいです。

ラビ・イッサさん(ガーナ)



ジェンダー 平等

男女平等を促す事例を盛り込んだ 学習雑誌を**10万世帯**に配布

全ての事業で、ジェンダー平等と女性と女子のエンパワメントを進めています。例えば、東ティモールで配布している学習雑誌「ラファエック」。ジェンダー平等を促す事例をわかりやすく掲載するなど工夫をしています。

教室内での男女の平等な扱いの事例を示したり、歴史上の女性の役割に焦点を当てるなどの工夫をしています。

シンプリシオ・バーボサ
(CARE 東ティモール事務所)



紛争・ 自然災害

ウクライナ危機をうけ、CARE が連帯して同国 および周辺国等で**緊急支援活動**を実施 戦時下でより弱い立場におかれる女性、子ども、 高齢者の命と尊厳を確保するための活動を展開

日本の皆さまからのご寄付を、606 個のギフトセットに変えて、最前線のドネツク州とドニプロペトロウシク州に暮らす子どもたちに、パートナー団体を通じて届けました。

戦時下では、親たちは生存に必要なもの、つまり住まいの確保、暖房の調達、基本的な生活必需品の入手を優先せざるを得ません。職を失い収入が不安定な状況では、おもちゃを買う余裕はまずなく、ましてや優先事項にはなりません。このような支援は、恐怖や避難、不安定な日常に苛まれる子どもたちにとって、特に意味深いものとなります。

ハリーナ・ピラク
(CARE ウクライナ事務所)



▲パートナー団体の職員から
ギフトを受け取る女子

CARE は、国連をはじめ各種専門機関や
支援実施国から高い評価と信頼を受けている
国際協力 NGO です

●組織概要 (2024 年 6 月現在)

団体名	公益財団法人 ケア・インターナショナル ジャパン (CARE International Japan)
創立年月	1987 年 5 月 (2010 年に公益財団法人として登記)
理事長	目賀田 周一郎 (元メキシコ駐劔特命全権大使)

●これまでの受賞歴

第3回「日経ソーシャルイニシアチブ大賞」大賞 (2015 年)

公益財団法人 ケア・インターナショナル ジャパン

〒171-0031
東京都豊島区目白2-2-1 目白カルチャービル5階
Tel: 03-5950-1335 Fax: 03-5950-1375
Email: info@careintjp.org



ケアインターナショナル

検索

<https://www.careintjp.org>



あなたにあった方法で CARE を支援してください

毎月定額のご寄付、特定事業へのご寄付、不用品のご寄付など
ご自身にあった方法で CARE の活動を
支援してください。

<https://www.careintjp.org/act/>



ケア・インターナショナル ジャパンへのご寄付は
寄付金控除の対象です

変える、
女性も女子も活躍する豊かな世界に

ケア・インターナショナル ジャパン



歴史は、 一つの小包から 始まりました



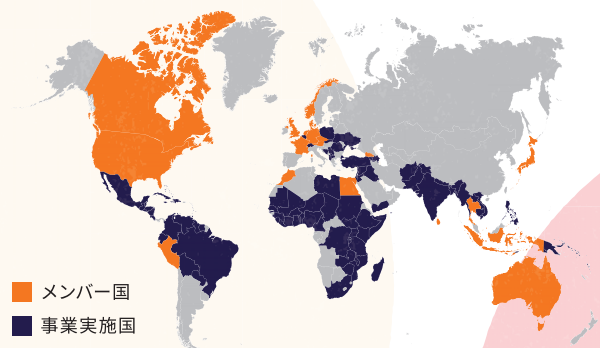
日本にも届いた 「CAREパッケージ(ケア物資)」

1948年から8年にわたり
困窮した1,000万人の日本人を救いました。

1987年、「次は世界に恩返しを」とケア・インターナショナル
ジャパンを発足。これまで、延べ78か国において最も困難
な状況におかれた人々の自立を支援してきました。



20のメンバー等がケア・インターナショナルを構成。
世界120か国以上で活動し、
年間 およそ6千万人に支援を届けています。



■ メンバー国
■ 事業実施国

第二次大戦後、 米国から欧州に送られた ケア 「CAREパッケージ」

食糧などの緊急支援物資とともに、
他者を想いやる心が詰まっていました。

その心は、現代のCAREパッケージにも込められているもの、
「箱」にはおさまりません。今は、災害時の緊急・復興
支援や開発支援という形で世界中に届けられています。



CAREは、貧困のない、
すべての人々が尊厳をもって安心して
暮らせる世界を目指しています

CAREは、女性と女子を
活動の中心にすえています。

貧困をなくすためには、女性と女子を含むすべての人々が
平等な権利や機会を得る必要があるからです。

貧困

世界では、およそ10人にひとりが
1日1.90米ドル未満で生活しています。
貧困層の7割が女性と子どもです。

女性の経済的なエンパワメントが、生活の
向上に大きく寄与することから、女性の意
思決定の場への参画を促し、経済的な自立
を支援しています。



ジェンダー平等

女性は、教育、就業や結婚など、様々な
機会ですら平等に扱われていません。

問題の解決には男性の参画も必要との考え
のもと、男性も巻き込みつつ、ジェンダー平
等に取り組んでいます。



紛争・自然災害

紛争や自然災害の頻度が高まり、被害
規模も甚大になっています。

世界中にははるめぐらされたグローバルネッ
トワークを活かし、瞬時に緊急支援体制を
確立し、被災者への対応を行っています。
また、災害時において特に弱い立場におか
れやすい女性と女子に配慮した支援を行っ
ています。



ケア・インターナショナル ジャパンは、
2030年に向けて世界が合意した
SDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けて取り組んでいます。

